

関連項目：教育活動プラン①、④

## 異学年による交流活動で年齢の異なる人たちと交流し、承認・賞賛の機会も増やす

### 目的

小中一貫教育校の特色を生かし1年生から9年生までが、異学年による交流活動を行い、児童・生徒がつながる機会を増やす。また、「ありがとうカード」の交換を行い、承認・賞賛の場面を作ることにした。

### 内容

#### ● ふたばサポート隊



I期（1～4年）  
ふたばちゃん



II期（5～7年）  
わかばちゃん



III期（8・9年）  
あおばちゃん

本校では期別にマスコットキャラクターをつくっている。「ふたばサポート隊」とは、運動会であおばちゃん（8・9年）の有志の生徒が、ふたばちゃん（主に1・2年）の児童の入場やトイレの誘導を手伝ったり、いっしょにリレーの応援をしたりするピアサポートの取り組みである。

運動会后、1・2年生が、お世話になった8、9年生に「ありがとうカード」を届け、ありがとうの気持ちを伝えた。今後も他の活動へも広げていきたい。

#### ● 兄弟学年での交流

1・4・9年、2・6・8年、3・5・7年を兄弟学年として、給食や昼休みの遊びなどの交流活動を行っている。



#### ● 清掃活動での交流

清掃活動に不慣れな1年生の清掃場所に6、9年生が、清掃の仕方は理解しているものの清掃しきれない2年生の清掃場所に8年生が、また小中共同エリアを小中複数の学年が担当し、異学年とコミュニケーションをとりつつ、清掃を行っている。



#### ● 交流給食

4階の多目的教室（ランチルーム）を使って、2つの学年の児童生徒が集まり、交流給食を行う。同じ校舎で生活しているが、小中で教室の階層が違うため、なかなかふれあう機会がもてない中、お互いの様子を知りあう良い機会となった。



### 成果

小学生は、中学生と交流することによりモデルとなる生徒が存在することで「卒業後は、あのような立派な中学生になりたい」と口に出して言う児童が増えてきた。

小学校からいっしょに学んできた教師が存在し、そこにいっしょに過ごしてきた小学生がいることは中学生になっても安心感をはぐくむことができている。